



自ら考え、行動し、 結果に責任を持てる 「自分流」を貫いて

帝京大学 理事長・学長 冲永佳史

取材文／堀水潤

撮影／中岡邦夫

【理事長・学長プロフィール】1973年生まれ。慶應義塾大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。93年学校法人冲永学園理事長、98年学校法人帝京平成大学副理事長、02年学校法人帝京大学理事長、帝京大学学長に就任。

【大学プロフィール】1966年設立。経済、法、文、外国語、理工、医、薬、医療技術、福岡医療技術学部の9学部25学科体制。八王子、板橋、相模湖、宇都宮、福岡に5つのキャンパスを有する。09年板橋キャンパスに医学部附属病院新棟が完成。

1966年設立の本学は、71年に医学部、77年に薬学部、89年に理工学部を設置したことで、文・理・医療系の総合大学となり、その後、医療技術学部や外国語学部の新設によって9学部を擁するまで発展してきました。

もともと本学は「社会の活力を生み出すには、社会を形成する大多数、つまり平均層の底上げをすべき」という創立者の考えのもと設立された経緯があります。全体のレベルアップを図ることで社会を変えようという基本コンセプトは今に至るも変わりありません。

しかし、創立時と比べ大学を取り巻く環境は激変しました。進学率の向上によって学生の裾野は広がり、一人ひとりの個性や志向も多様化しています。そうした時代の変化や要請に応える形で、教育研究体制の高度化や多様化を図り、さらにグループ校（帝京平成大学、帝京科学大学等）の創設も進めてきました。

根底に流れるのは「実学」「国際性」「開放性」という3つの教育指針です。第一線で活躍する専門家の招聘、留学提携校などグローバルなネットワーク、学部を越え幅広い学問領域を履修できる柔軟なカリキュラムなどの特徴はすべて

この指針に沿うものです。

近年推し進める新たな教育プログラムの構築やカリキュラムの見直しにもそれは愚直なまでに反映されています。例えば、各学部における教職課程を強化し、より力のある教員を育成するために学部横断型で面倒をみる「教職センター」の設置。また、多彩なメニューを持つインターシンプ制度やキャリア教育科目を質量ともに充実させていることも、それにあたりましょう。

これら3つの教育指針をわかりやすく集約したものが「自分流」という教育理念です。自分勝手に生きろということではありません。「自分で考え判断し、行動し、結果に対しても責任を持つ」ということです。

どうか、自らの可能性を信じ、一人の人間として社会で何ができるかということを探究してください。こだわりを持つて自発的に物事に取り組み、未来を切り拓いてください。

自分の力を積極的に試したいと思っている人、そういう感覚を少しでも心に秘めている若者に期待します。私自身、気力、体力とも十分ですが、さらに若く元気な学生さんを見てみると、本当に力が湧いてくるのです。